



Corporate Report 2014

コーポレートレポート



ASAHI HOLDINGS グループシンボルマークについて

スパイラルをモチーフにしたグループシンボルマークは、事業特徴である「循環による環境保全」を追求していくという企業姿勢と、継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は、先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動をしていくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。

編集方針

本レポートは、「企業」・「環境」・「社会」の3つの側面に対する当社の考え方と前年度の取り組みをご紹介しますとともに、会社案内を兼ね備えたコミュニケーションツールとして作成しています。

免責事項

このレポートには、アサヒホールディングスグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見通し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって記述とは大きく異なる可能性があります。

対象期間

2013年度（2013年4月1日から2014年3月31日まで）
※一部、上記期間外の事項も含まれます。

目次 Contents

2 企業の側面 Company Overview

- 3 アサヒウェイ
- 4 トップメッセージ
- 5 グループ概要
- 7 貴金属リサイクル事業
- 12 環境保全事業

16 環境的側面 For the Environment

- 17 事業活動にともなう環境影響
- 19 地球温暖化防止への取り組み
- 20 省エネルギーへの取り組み
- 21 事業活動を通じた環境負荷低減効果
- 23 環境マネジメント

24 社会的側面 For the Society

- 25 コーポレート・ガバナンス
- 27 お取引先の皆様とともに
- 28 地域社会の皆様とともに
- 30 社員とともに
- 35 株主・投資家の皆様とともに

36 資料編 Reference

- 37 グループの歩み
- 39 グループ一覧

企業的側面

Company Overview

アサヒホールディングスグループは、お客様や社会からの要請に対して誠実にお応えし、良識ある企業集団としての責任を果たしてまいります。

INDEX

- 3 アサヒウェイ
- 4 トップメッセージ
- 5 グループ概要
- 7 貴金属リサイクル事業
- 12 環境保全事業

アサヒウェイ “この手で守る自然と資源”

わたしたちの信条

わたしたちは、独自の技術と知恵で、
次世代からの預かり物である地球の資源を守り、
環境を保全します。

わたしたちが企業として大事にすること

信頼と絆
安全最優先、社名より人命
革新と挑戦、なき者は去れ
利益なくして成長なし

わたしたちが社員として守ること

明るく礼儀正しく振る舞います
考えながら迅速に働きます
悪い情報や不都合なところを直ちに報告します
高い目標を達成することで成長します

アサヒホールディングスグループの十則

- 第一則 わたしたちは、関係するすべての法令や規範に反する行為をしません。
- 第二則 わたしたちは、社会通念や自らの良心に反する判断や行動をしません。
- 第三則 わたしたちは、年齢・性別・国籍や職位にもとづく差別を行いません。
- 第四則 わたしたちは、会社や仕事に関連する場で許可なく政治活動や宗教活動を行いません。
- 第五則 わたしたちは、すべてのお客様に対し不誠実で不適切な対応やサービスを行いません。
- 第六則 わたしたちは、すべての取引において公平な競争や最適なお取引先の選定を妨げる行為をしません。
- 第七則 わたしたちは、業務上で知り得た社員やお取引先の情報、外部に公表されていない技術・財務・人事等の情報を洩らしません。また内部機密情報にもとづいた株式等の金融商品の売買を行いません。
- 第八則 わたしたちは、個人的利益に繋がる食事、接待や贈答を行わないし、受けることもありません。
- 第九則 わたしたちは、仕事でのすべての行為は全体最適のためと理解し、所属する集団や個人への利益を優先した行動や言動をしません。
- 第十則 わたしたちは、現場・現物・現実を徹底的に理解し、小さな事でも見逃しません。

アサヒホールディングスグループ各社の経営トップは、本則に反する事態が発生した時は自ら問題解決にあたり原因究明と再発防止に努めると同時に、自らを含めた厳正な処分を行います。

第6次中期経営計画 グループスローガン (2012年4月～2015年3月)

Act III , with Asahi Way

当社グループの歴史において、1952年の創業から1999年の株式公開までを第一幕 (ACT I) とし、株式公開から創業60周年を迎えた第5次中期経営計画までを第二幕 (ACT II) とすれば、海外事業を拡大し、グローバルな展開を実現する第6次中期経営計画は第三幕 (ACT III) と位置づけております。この第三幕の端緒を開く第6次中期経営計画においては、「アジア地域における事業の拡大」、「M&Aによる事業領域の拡張」、「グループ経営管理の効率化」の3つのACT (行動) に重点的に取り組みます。



トップメッセージ

企業価値向上策に対する 評価を受けて

2013年度は、アベノミクスを背景として、日本経済全体はやや明るさを取り戻しました。

しかし、当社を取り巻く事業環境は、エレクトロニクス業界の激しい変化や貴金属価格の乱高下など厳しい経営環境でした。

そのような中で、中期経営計画で掲げた3つの重点施策に注力いたしました。

前年度に設立した台湾現地法人の工場ラインが稼働を開始し、ベトナム駐在員事務所の活動も順調に進んでいます。その他の東南アジア地域や東アジアにおいても、着実に事業を拡大いたしました。今後は、アジア以外の国での事業についても、積極的にチャレンジする所存です。

2014年3月に紘永工業株式会社を新たにグループ会社といたしました。同社は防災、空調および衛生設備の設計・施工を専門としており、2012年にグループ会社化したインターセントラル社と同じ事業領域にあります。相互の会社が、空調関連分野で相乗効果を発揮し成長することを期待しています。M&Aに関しては、今後とも既存事業にこだわらず、幅広い事業分野での可能性を追求してまいります。

グループの経営管理につきましては、IT技術などを最大限に活用しながら業務の効率を徹底的に高める努力を続け、スピード感の溢れる事業運営を目指します。

東京証券取引所が、2014年の年初にスタートさせた「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に、当社の株式が選定されました。全上場会社約3400社の中の400社に選ばれたことは株式会社の勲章である、と誇りに思っています。これまで、資本の効率的な活用や投資家を意識した施策などを重視した経営をしてまいりました。今回の選定は、当社のこの経営姿勢を高く評価していただいた結果である、と考えております。昨年度の東京証券取引所の「ESG銘柄選定」に引き続いての評価と、有難かつ重く受け止めています。(ESGとはEnvironmental「環境」Social「社会」Governance「統制」の略)。

今後とも、役員および社員一同が一致協力して、「ESGを強く意識する」と共に「持続的な企業価値向上の実現」に向けて努力いたします。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年5月

代表取締役会長 寺山満春

グループ概要

貴金属リサイクルと環境保全を中心に事業活動を展開し、地球環境の保全に貢献しています。

アサヒホールディングス株式会社

●会社概要

創 業：1952年7月
 設 立：2009年4月
 資 本 金：4,480百万円
 代表取締役：寺山 満春（会長兼社長）
 本 社：〒650-0001
 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 TEL 078-333-5633
 FAX 078-333-5681
 〒100-0005
 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サピアタワー 11F
 TEL 03-6270-1833
 FAX 03-6270-1859

役員一覧：

代表取締役会長兼社長	寺山 満春
取 締 役	武内 義勝
取 締 役	東浦 知哉
取 締 役	平野 眞幸
取 締 役	重政 啓太郎
取 締 役	川畑 一夫
取 締 役	森井 章二*
常勤監査役	田辺 幸夫
監査役	徳嶺 和彦*
監査役	小島 順三*

*会社法第2条に定める社外役員
 (2014年6月17日現在)



神戸本社



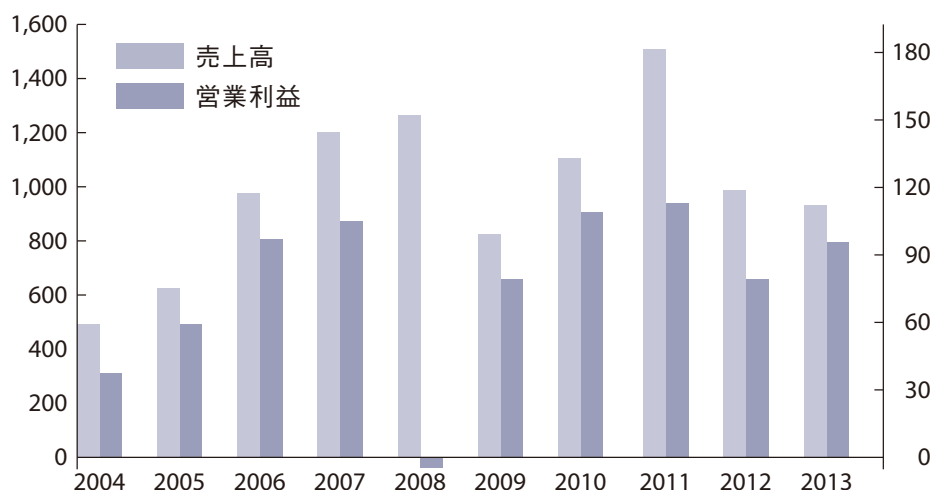
東京本社

社員数（連結）：1,360名（2014年4月現在）

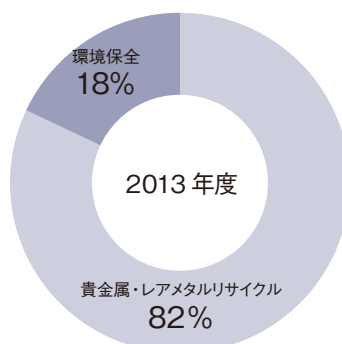
URL <http://www.asahiholdings.com>

●売上高・営業利益の推移

（売上高：億円）



●事業セグメント別グループ売上高構成比



アサヒプリテック株式会社

●会社概要

事業内容：貴金属・レアメタルリサイクルおよび
産業廃棄物処理

代表取締役：東浦 知哉

本社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

TEL 078-333-5600

FAX 078-333-5681

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

TEL 03-6270-1820

FAX 03-6270-1825

社員数：901名

URL <http://www.asahipretec.com>

<国内拠点>

研究所：テクノセンター（神戸）

工場：埼玉、尼崎、神戸、愛媛、福岡、北九州、北九州ひびき

リサイクルセンター：埼玉、千葉、尼崎

営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、

甲府、静岡、名古屋、北陸、阪神、神戸、岡山、

広島、四国、福岡、北九州、鹿児島、沖縄

<関係会社> 株式会社ウスタ製作所

<海外拠点>

韓国：韓国アサヒプリテック株式会社

中国：上海朝日浦力環境科技有限公司

台湾：台湾アサヒプリテック株式会社

朝世科技股份有限公司（合併会社）

マレーシア：Asahi G&S Sdn. Bhd.

ベトナム：ベトナム駐在員事務所

ジャパンウェイト株式会社

●会社概要

事業内容：環境保全

（産業廃棄物処理およびその他の環境保全事業）

代表取締役：武内 義勝

本社：〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17

ニッセイ三宮ビル16F

TEL 078-333-5680

FAX 078-333-5681

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

サピアタワー 11F

TEL 03-6270-1828

FAX 03-6270-1839

社員数：419名

URL <http://www.japanwaste.co.jp>

<国内拠点>

工場/営業所：横浜

<関係会社>

日本ケミテック株式会社

JW ガラスリサイクル株式会社

富士炉材株式会社

エコマックス株式会社

JW ロジスティクス株式会社

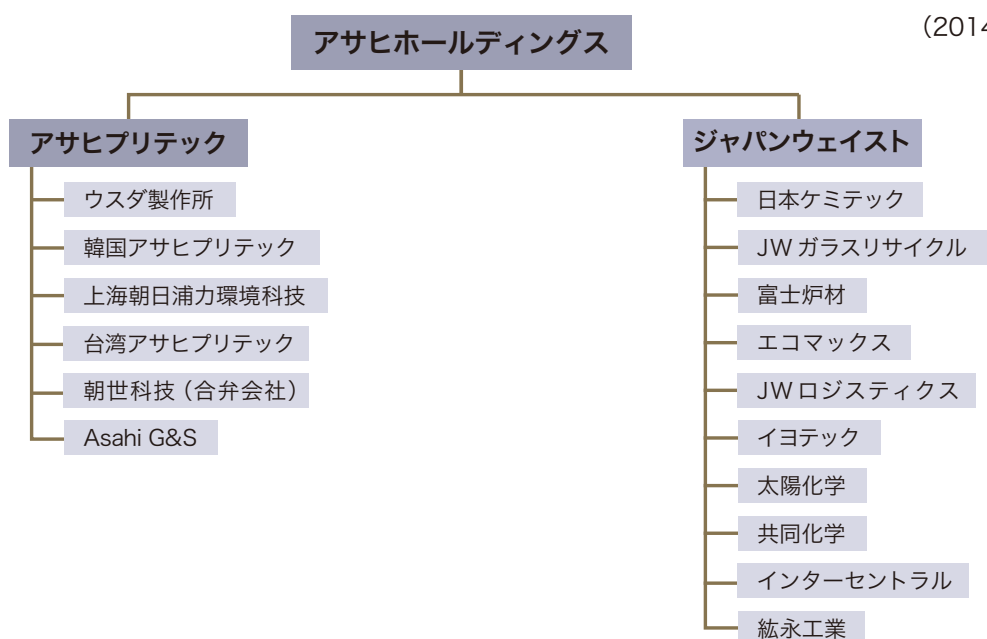
株式会社イヨテック

株式会社太陽化学

株式会社共同化学

株式会社インターセントラル

紘永工業株式会社



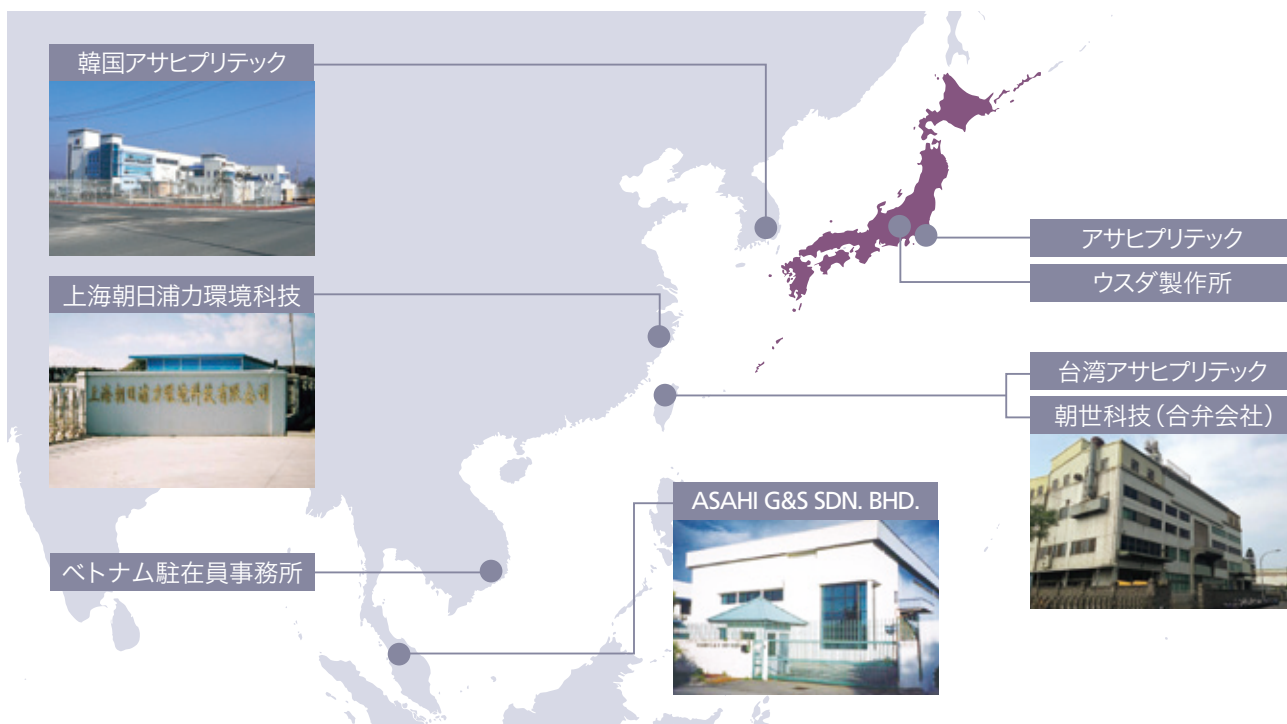
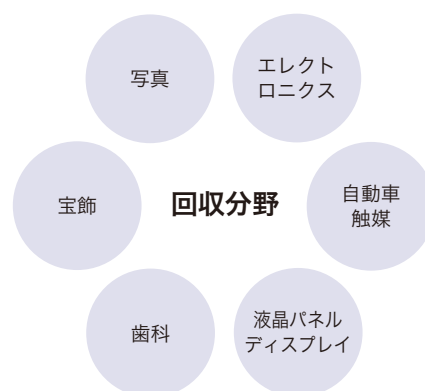
事業紹介 貴金属リサイクル事業

限りある資源を有効活用し、地球と社会のために貢献しています。

アサヒブリテックを核として、私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウムなどを、現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。

貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。

全国をカバーする営業ネットワークと海外拠点を活かし、エレクトロニクス・自動車触媒・液晶パネルディスプレイ・歯科・宝飾・写真などのさまざまな産業分野から貴金属・レアメタル資源を効率よく回収しリサイクルしています。



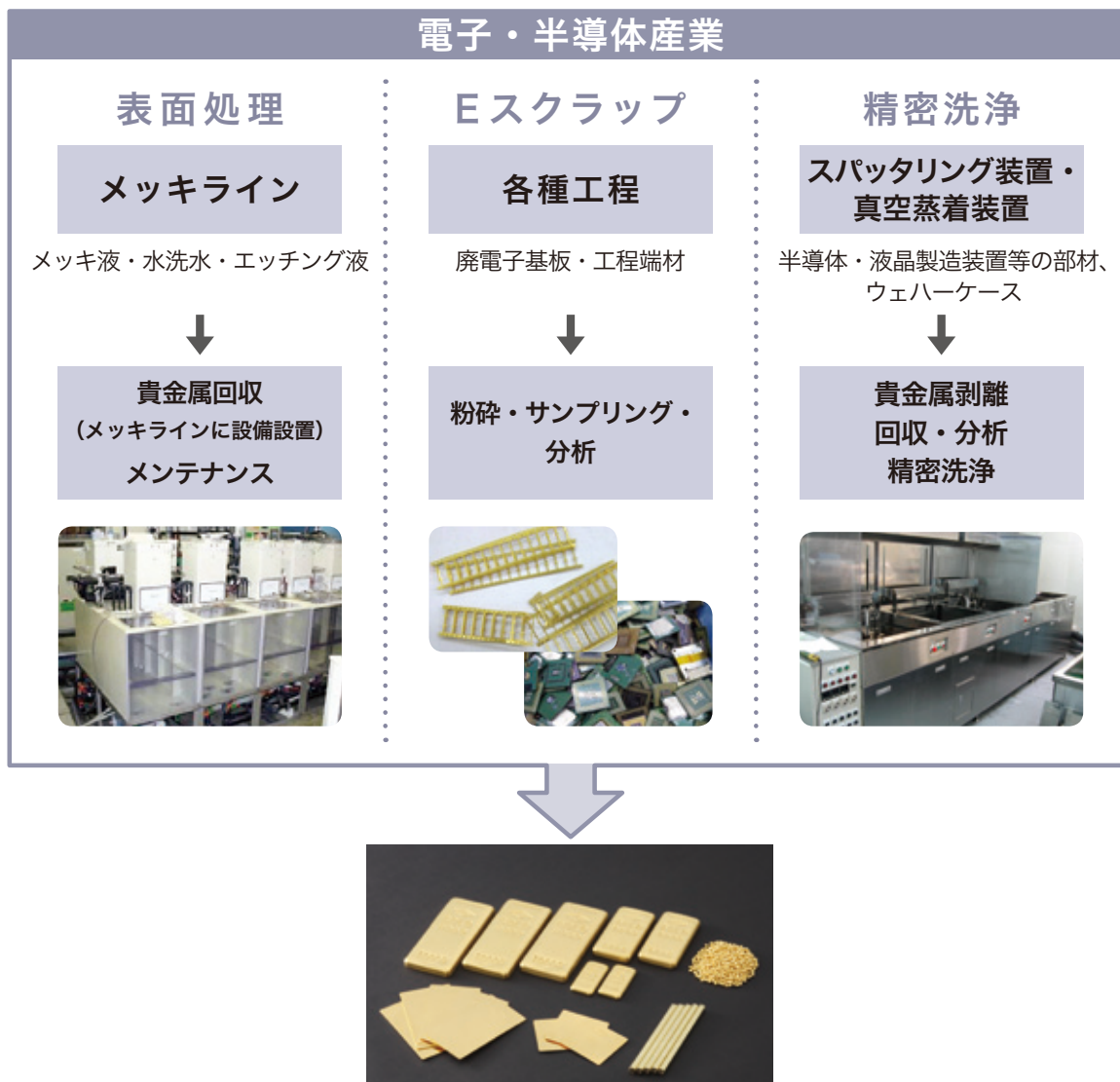
確かな品質が国内外で高い評価を受けています。

アサヒブリテックは一般社団法人 日本金地金流通協会の正会員で、金・銀・プラチナ・パラジウムの地金は、(株)東京商品取引所の受渡供用品としてブランド認証を受けています。さらに、金・銀はLBMA (The London Bullion Market Association)、プラチナ・パラジウムはLPPM (The London Platinum and Palladium Market)のグッド・デリバリー・バーとして認定を受けており、確かな品質が世界のマーケットで高く評価されています。



エレクトロニクス分野

電子・半導体産業では、パソコン・携帯端末などに使用される電子部品やプリント基板の製造工程などで、貴金属やレアメタルが使用されます。当社はさまざまな工程で排出される貴金属やレアメタルを卓越した技術で回収しリサイクルをしています。



また、全国のオフィス・工場・データセンターなどからパソコンをはじめとする情報機器を回収し、徹底した素材分析を行うことにより、使用素材を再資源化し環境負荷の低減と循環型社会の創造に貢献しています。

コンフリクトメタルの取り扱い

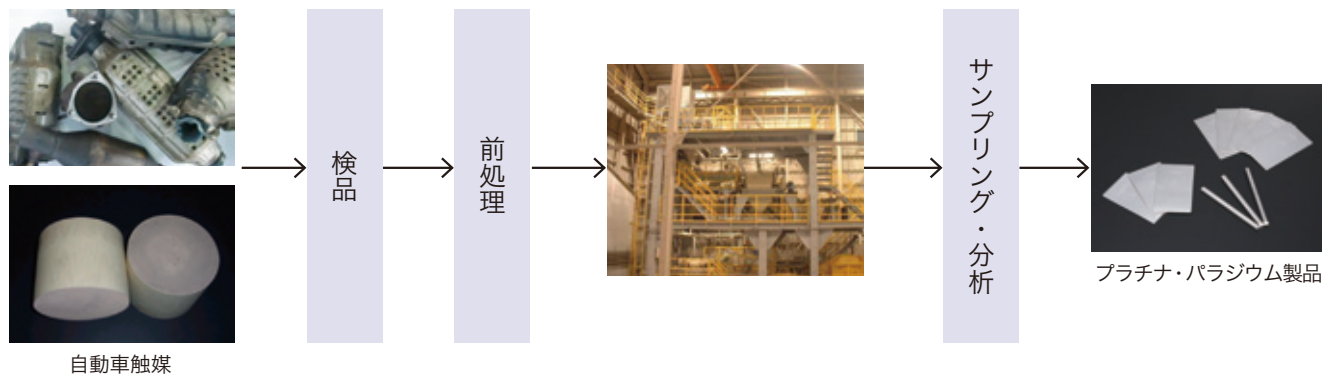
当社が生産する貴金属製品を世界中のお客様に安心してご利用いただくために、コンフリクトメタル(紛争鉱物)^{*1)}の不買・不使用を徹底しており、コンフリクトメタルと一切関わりを持たない精錬業者認証プログラム「EICC-GeSI Gold Conflict-free Smelter Program」^{*2)}に基づく指定第三者機関による監査を受け、当該認証を取得しております。

*1) コンフリクトメタル(紛争鉱物)とは、紛争、人身売買、奴隷、強制労働、児童労働、虐待、戦争犯罪などの非人道的行為やテロ活動、マネーロンダリングなどの不正行為が認められる国や地域に由来する鉱物を指し、これらの活動資金源になりかねないものとして懸念されています

*2) URL : www.conflictreesmelter.org

自動車触媒分野

触媒分野では、大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制に従い、自動車排ガス浄化触媒としてプラチナ・パラジウム・ロジウムの貴金属が使用されています。当社は独自の技術により、自動車触媒や化学触媒などからの貴金属リサイクルに取り組んでいます。



液晶パネルディスプレイ分野

携帯端末や車載関連製品などに使用されている液晶パネルディスプレイにはインジウムが使用されています。当社は独自の高度な技術によりレアメタルのリサイクルに取り組んでいます。

TOPICS 台湾工場の稼働開始

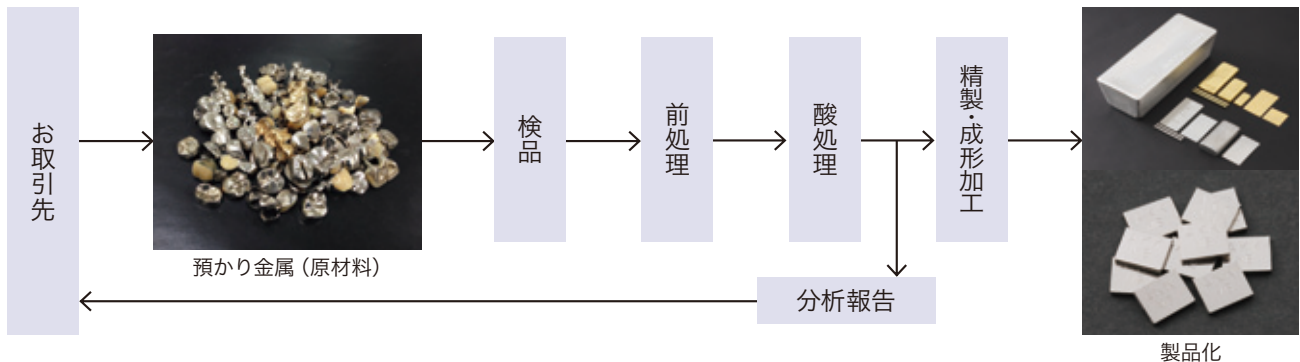
2013年12月に台湾アサヒプリテックの工場を新竹サイエンスパークに隣接する新竹工業区に開設し稼働を開始いたしました。同工場ではさまざまな産業分野から排出された貴金属メタルを効率良く回収を行う「貴金属リサイクル事業」と、半導体・LED製造装置等で使用されている治工具から貴金属剥離・洗浄を行う「精密洗浄事業」を展開しています。精密洗浄事業は台湾アサヒプリテックの子会社として2013年3月に現地の精密洗浄大手との間で設立した合併会社「朝世科技股份有限公司」において行っています。



台湾はエレクトロニクス業界・半導体業界をはじめとするハイテク産業の集積地です。とりわけ同工場が隣接する新竹サイエンスパークは有数の企業・工場・研究所が立地しており、優れた自然および文化環境資源を企業へ提供し、世界のハイテク産業の進展に大きく寄与しております。アサヒホールディングスのグループ会社として、台湾における貴金属リサイクル事業および洗浄事業の更なる拡大をめざします。

歯科分野

歯科医院や歯科技工所から排出される撤去冠・鑄造くずなどは金・パラジウム・銀などを含む貴重な貴金属資源です。当社独自の管理システムにより、工程ごとに二重三重のクロスチェックを行い、分析納期の短縮、分析数値の精度アップを実現します。



アサヒメタルアカウントシステム (歯科分野のお客様向け)

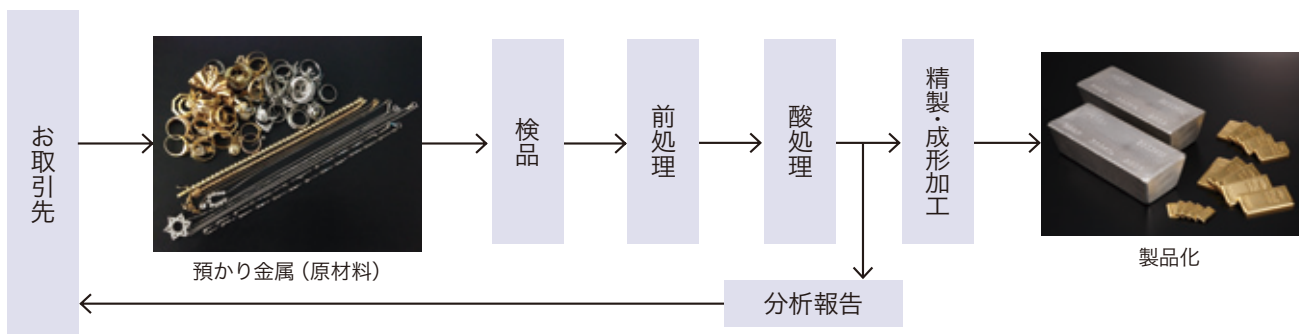
歯科医院や歯科技工所から発生する貴金属を分析結果にもとづき当社が預かり、お客様の売却したいタイミングで決済できる業界初のシステム^{*1)}です。お客様は、Web上でお預入残高を確認し現金での決済、あるいは貴金属製品での返却^{*2)}を選択いただくことで、ご利用いただいているお客様からご好評をいただいております。

*1) システムのご利用にあたっては事前に申込みが必要となっております。

*2) 現物返却の対象は、金地金のみとなっております。

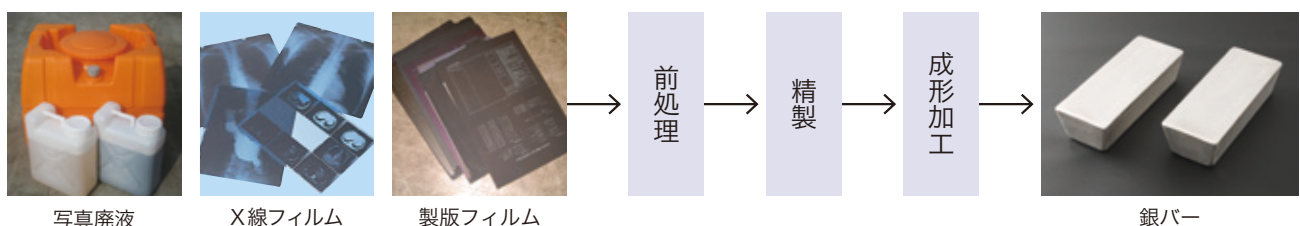
宝飾分野

高度な分析・貴金属精製技術に基づき、宝飾品の製造過程で発生するバフ粉や電解研磨液等の回収および流通過程等で求められる各種リサイクルに対応しています。また、宝飾品製造団体から「貴金属スクラップの回収・分析」の業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお取引先の皆様から厚い信頼をいただいております。



写真分野

写真現像所、医療機関、印刷製版所などから排出される写真廃液、X線フィルム、製版フィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行っています。また、ミニラボから排出されるフィルムケース、パトローネ、薬品ボトルは、圧縮・破碎処理後に素材原料として再利用するゼロエミッション・マテリアルリサイクルを実現しています。



RESEARCH & DEVELOPMENT テクノセンター

技術のテクノセンター

「貴金属・レアメタルのリサイクル」と「産業廃棄物の無害化・再資源化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めてきました。その中枢が神戸ハイテクパーク内に開設された「テクノセンター」です。品質向上と技術革新を通じて社会に貢献する企業としてさらなる飛躍をめざします。



研究開発

常にニーズを先取りし、蓄積された要素技術の応用と新技術の開発を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

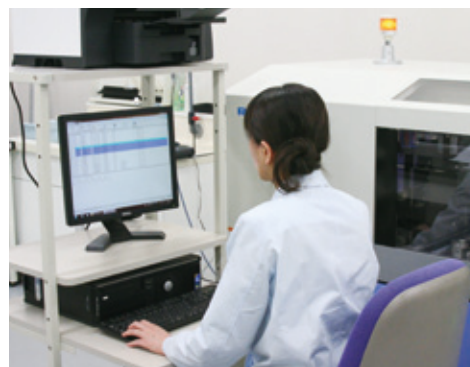
- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製技術
- ② 環境保全・再資源化技術
- ③ 貴金属成形加工技術
- ④ 中性電解水応用技術



分析

当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様、お取引先の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の純度分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 環境計量証明事業



エンジニアリング

最先端技術を駆使し、各分野のエキスパートが、国内拠点・海外拠点の設備の設計・製作・施工・メンテナンスを行い、設備の安全かつ安定的な操業の支援をしています。

- ① 設備および建屋の設計・製作・施工・管理
- ② 既存設備の維持管理・メンテナンス
- ③ 顧客先への貴金属回収設備の設置・アフターサービス



トップレベルの貴金属分析技術

LBMA(The London Bullion Market Association)が、認定した機関の分析能力を維持向上させる新たな試みとしてLBMA Proficiency Testと呼ばれる技能検定試験を2012年度から開始しました。国内外の名だたる40の分析機関が参加した複数回の技能検定試験の結果、アサヒブリテックの分析値はトップレベルの好成績を収めました。また、分析技術者向けに、社内で技能検定試験を行い、更なるレベルアップを図っています。

事業紹介 環境保全事業

私たちは各種廃棄物の無害化・適正処理を中心として、地球環境の保全に貢献しています。アサヒブリテックおよびジャパンウェスト傘下のグループ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お客様の多様なニーズにお応えします。

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努めています。

各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客様のニーズに迅速にお応えします。

- アサヒブリテック営業拠点
- 工場
- 関係会社

インターセントラル

(岩手、北海道、仙台、秋田、金沢、東京、名古屋、大阪、福岡)

- 電気ヒーター類の製造・販売および放射冷暖房システムの設計・施工業

イヨテック (兵庫)

- 各種製造業への人材派遣、人材紹介および製造業務請負事業

エコマックス (神奈川)

- 焼却処理施設などから発生する燃え殻・煤塵や汚泥等のコンクリート固型化処理

太陽化学 (鹿児島)

- 電子部品業界・病院などからの廃棄物処理
- 写真感材事業

JWロジスティクス (横浜・川崎)

- 産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬

紘永工業 (横浜)

- 防災、空調及び衛生設備の設計、施工

共同化学 (北海道)

- 産業廃棄物の収集運搬および中間処理
- 写真感材事業

日本ケミテック (埼玉・横浜・茨城)

- 半導体産業などからの工場廃液処理
- 有機性廃液の処理および汚泥の発酵・堆肥化

JWガラスリサイクル (東京・北海道・宮城・群馬・静岡)

- 板ガラス・ガラス瓶の再資源化

ジャパンウェスト (東京・横浜・川崎・神奈川)

- 廃油の燃料化
- 汚泥等のセメント原料化
- 木屑の再資源化
- 電機・情報機器関連の廃棄物処理
- 半導体製造装置の洗浄

富士炉材 (東京・横浜・長野・神戸)

- ガラス製造炉・ごみ焼却炉などの解体および定期修繕工事
- 耐火レンガなどの収集運搬および中間処理・リサイクル
- 土木・解体工事

TOPICS 紘永工業のグループ会社化

2014年3月より紘永工業株式会社が当社の連結子会社である株式会社インターセントラル社の子会社として当社グループに加わりました。同社は、防災、空調、および衛生設備の設計、施工を公共施設、病院、文化・商業施設などへ提供しており、放射式空調システムの設計、施工を営むインターセントラルと一体となって、グループ全体の更なる発展をめざしてまいります。



さまざまな廃棄物のグループ内 ワンストップソリューションをめざしています。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制づくりをしています。さらに、産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現をめざしています。



当社グループの取得ライセンス

(2014年3月31日現在)

- 産業廃棄物収集運搬業許可
- 産業廃棄物処分業許可
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可
- 特別管理産業廃棄物処分業許可
- 優良産廃処理業者認定*

すべての都道府県・政令市

15都道県9政令市

すべての都道府県・政令市

12道県8政令市

アサヒブリテック：すべての都道府県・政令市

ジャパンウェスト：24都府県2政令市

*2011年4月に廃棄物処理法が改正され、優良産廃処理業者認定制度が創設されました。事業の実施に関する能力や実績など、より厳しい基準に適合する業者を都道府県・政令都市が認定する制度です。グループ全体で、優良産廃業者認定の取得を進め、お客様が安心して委託できる体制を整えています。

特定有害廃酸・廃アルカリ・ 廃試薬処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや大学・民間企業の実験室や研究所で不要になった廃試薬は適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで無害化処理をしています。また、当社グループの分類基準に沿って容器に分別保管し、収集運搬および保管時の異常反応発生防止措置を行っています。廃試薬瓶のラベルが剥れ、内容物が不明なものについても当社で分析し、適正処理のサポートを行います。



梱包作業



廃試薬処理設備

廃酸・廃アルカリ・汚泥の 高速微生物処理

工場や事業所からの廃液については有害物質を取り除いた後、窒素・リンを含む場合でも、微生物処理等の独自技術によって排水自主管理基準未達まで浄化し、下水道放流しています。特にエネルギー消費や二酸化炭素排出量は、他の処理方式との比較で低くなっています。

また、廃液の中和・脱水後の汚泥は、非鉄金属や鉄鋼の原料として再利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処分されます。



微生物処理施設

有害物のコンクリート固型化処理

焼却処理施設などから発生する燃え殻、煤塵、汚泥や有害物（ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類等）を含む廃棄物の中にはリサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物が溶出ないようにコンクリート固型化（不溶化）処理しています。強い酸性条件下でも有害物を自然界に溶出させない独自の設備と技術を有しています。



不溶化処理施設

有害廃棄物の洗浄処理

半導体メーカー、電子部品メーカー、研究所などの半導体製造装置・各種研究設備に付着した有害物質を洗浄処理しています。洗浄処理後の装置や設備は素材分別、再資源化することで環境負荷低減を図っています。

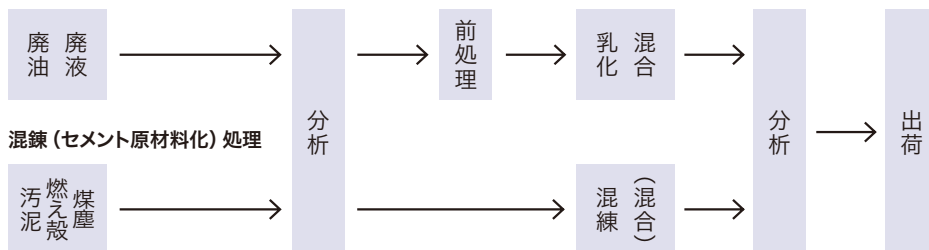


洗浄処理装置

廃油・汚泥リサイクル

さまざまな廃油や廃液を分析結果をもとに最適な配合で混合、成分調整を行い、代替燃料としてリサイクルしています。また、汚泥や燃え殻などは成分や水分を調整し混練することでセメント原料としてリサイクルしています。なお、受け入れ時と出荷時に徹底した分析を行い、マテリアルリサイクル品としての品質維持管理に努めています。

中和・混合(燃料化)処理



製品タンク



セメント原料製造施設

廃木材リサイクル

建築物の解体現場などで発生する廃木材を破砕し、破砕後の木材チップをバイオマス発電燃料やパーティクルボード材料としてリサイクルしています。



木材チップ

耐火レンガリサイクル

ガラス製造炉の窯解体およびごみ焼却炉などの定期修繕工事で発生する廃耐火レンガは、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなどリサイクルを意識した処理を行っています。



耐火レンガ

ガラスリサイクル

ガラスメーカー、サッシメーカー、自治体などから板ガラス、ガラス瓶などを回収しています。回収した板ガラスくず、空き瓶などは自社工場で選別破砕後、高品位のガラスカレットとして再生・販売しています。ガラスリサイクルを通じて、鉱物資源の枯渇防止や環境負荷低減を図っています。



製品ガラスカレット

有機性廃液・汚泥のリサイクル

食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される有機性廃液は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で排除基準値未満まで浄化し、下水道放流しています。汚泥は、発酵・熟成プラントで堆肥化することにより農家の方々に有機肥料として有効利用していただいています。



堆肥発酵棟

省エネルギー

快適で環境と人にやさしく、クリーンで省エネ性を備えた暖房機の製造販売や、放射効果により少ないエネルギーで快適な室温を作り出す最先端の放射式冷暖房システムの設計・施行を行っています。さまざまな製品・システムを、学校、病院、文化施設、商業施設や一般住宅等に提供しています。空調の可能性を追求し、より快適な空間づくりをめざしています。



放射式冷房システム施行例

環境的側面

For the Environment

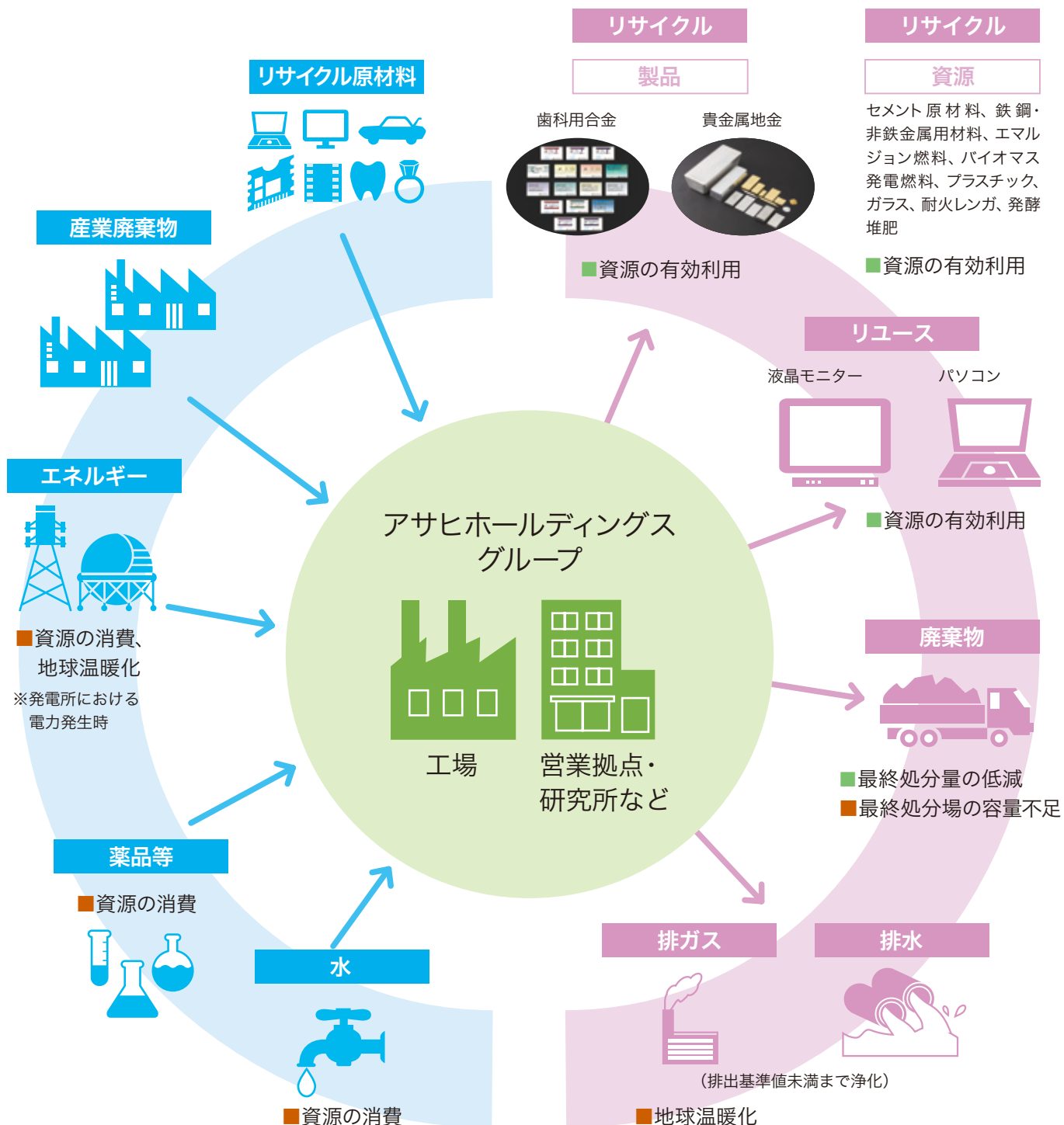
アサヒホールディングスグループは、地球環境の保全活動に取り組む方針を制定・運用し、環境と調和のとれた持続可能な発展をめざしています。

INDEX

- 17 事業活動にともなう環境影響
- 19 地球温暖化防止への取り組み
- 20 省エネルギーへの取り組み
- 21 事業活動を通じた環境負荷低減効果
- 23 環境マネジメント

事業活動にともなう環境影響

事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入 (INPUT) と事業活動を通じて生じる環境影響 (OUTPUT) を表しています。



環境パフォーマンス

環境保全、貴金属・レアメタルリサイクルの事業活動で使用したエネルギー、資源（水）、薬品等をINPUTとし、投入した物質が事業活動を行うことで排出する環境負荷をOUTPUTデータとして記載しています。

M&Aや新規事業への取り組みなど事業を拡大していますが、生産の効率化や処理プロセスの見直しなどにより、エネルギー使用量は前年度と同じ水準に留めることができました。

一方で、電気事業者のCO₂排出係数が引き上げられたことにより、当社グループ全体でのCO₂排出量は、前年度に比べ増加しました。

INPUT

	単位	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
電力	MWh	21,674	24,097	23,816	23,035	22,963
重油	kl	1,466	1,465	1,192	891	739
灯油	kl	379	440	440	451	449
軽油	kl	2,965	3,216	3,200	3,176	3,241
ガソリン	kl	848	899	914	928	917
都市ガス	千m ³	527	64	27	13	12
LPG	t	17	20	22	19	13
水	千m ³	345	378	364	336	322
薬品等	t	13,293	13,189	14,191	13,140	12,688

OUTPUT

	単位	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
CO ₂ 排出	t	24,327	24,798	23,863	25,474	26,946
排水	千m ³	208	246	251	217	180
廃棄物	t	16,644	16,249	17,719	16,048	15,460

※：排出基準値未達まで浄化

環境会計

環境経営の推進にあたり、2005年度から環境会計を導入し、環境保全に関するコストを公開しています。環境省の環境会計ガイドラインに沿って作成しています。

● 2013年度環境保全コスト

(単位：百万円)

	分類	主な取り組み内容	費用額	投資額
1. 事業エリア内コスト	(1) 公害防止コスト	排ガス処理設備、 排水処理設備の維持管理等	361.4	14.5
	(2) 地球環境保全コスト	省エネルギー活動 (節電、車両燃費向上等)	11.2	19.1
	(3) 資源循環コスト	産業廃棄物処理委託	213.7	0
2. 上・下流コスト		—	0	0
3. 管理活動コスト		ISO14001 管理活動 環境情報開示コストなど	72.8	0
4. 研究開発コスト		貴金属精製工程の合理化 廃棄物の埋め立て量削減	40.3	0
5. 社会活動コスト		地域の清掃活動	2.8	0
6. 環境損傷対応コスト		—	0	0
総計		—	702.3	33.7

地球温暖化防止への取り組み

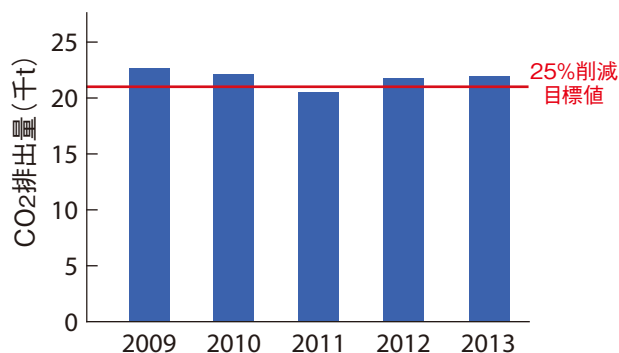
目標：温室効果ガス*排出量を、2008年度を100として、2020年までに25%以上削減

*温対法で定めるエネルギー起源 CO₂

主要施策

- ① 廃棄物の有効利用 (化石燃料の代替使用)
- ② 省エネ型機器・設備・建物への更新
- ③ 焼却炉廃熱の有効利用
- ④ 廃棄物燃料の利用拡大

● 温室効果ガス排出量 (エネルギー起源*：生産、輸送、事務所など)

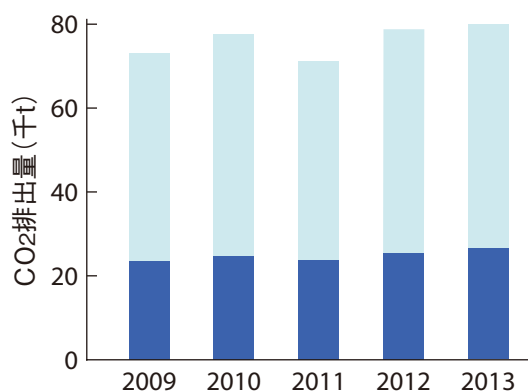


当社グループでは、エネルギー効率の高い設備・機器への転換や設備運転の効率化による電力および燃料の使用量削減を推進し、目標対象拠点*¹⁾の2013年度エネルギー使用量は、基準年度比30%減となりましたが、CO₂排出量は電力会社の排出係数が引き上げられたことにより、基準年度の22%減に留まりました。

※1) 2008年度時点で実施している事業を対象

■：削減目標の対象となる温室効果ガス排出量

● 温室効果ガス排出量 (実排出量*：生産、輸送、事務所)



エネルギー起源 CO₂ 排出量と非エネルギー起源 CO₂ 排出量を合計したグループ全体での2013年度 CO₂ 排出量は、80千tとなり前期比で3%増加しました。

エネルギー使用量は前年度とほぼ同じ水準でしたが、産業廃棄物の焼却量が2%増加したことや、電力排出係数が上がったことなどにより、CO₂ 排出量は増加しました。

■：エネルギー起源の CO₂ 排出量

■：非エネルギー起源の CO₂ 排出量

※温室効果ガス排出量の計算 (温対法に準拠)

[エネルギー起源 CO₂] = [電力、化石燃料の使用にともない排出する CO₂]

[実排出量] = [エネルギー起源 CO₂] + [産業廃棄物の焼却にともない排出する CO₂]

● 太陽光発電システムについて



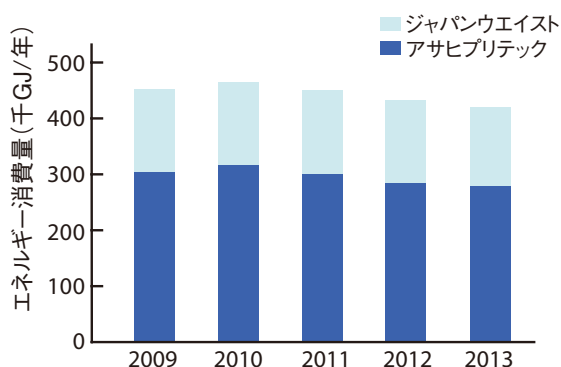
モニターによる発電状況の紹介

アサヒプリテックでは、阪神事業所に出力100kWの太陽光発電システムを設置し、2013年4月より、全発電量を関西電力へ売却しています。

2013年度の総発電量は、126千kWhであり、CO₂削減量に換算すると約63千tに相当し、スギの人工林約8ha (4,500本)の年間吸収量と同じくらいになります。

省エネルギーへの取り組み

●エネルギー消費量(エネ起源：生産、輸送、事務所など)



当社グループ全体のエネルギー消費量は、前年度とほぼ同じ水準でした。

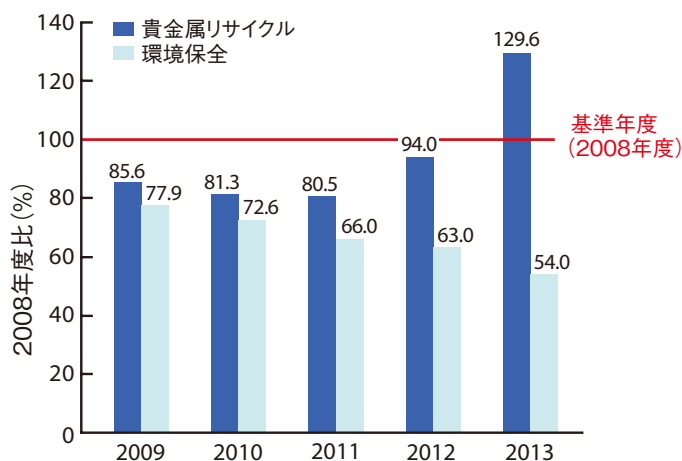
アサヒプリテックでは、次のような施策により、エネルギー使用量が前年度比2%減少しました。

＝実施事例＝

- ・再生油への切替推進(愛媛工場)
- ・コンプレッサーの集約による電力削減(北九州工場)
- ・照明のLED化推進
(テクノセンター、埼玉工場、神戸工場等)

ジャパンウエストでは、省エネ活動を推進していますが、処理量の増加に伴い、エネルギー使用量が前年度比2%増加しました。

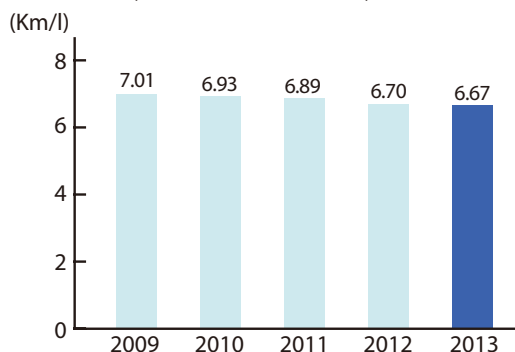
●エネルギー原単位 2008年度比率(アサヒプリテック)



貴金属リサイクルセグメントにおけるエネルギー原単位は、生産量の影響により前年度より悪化しました。

一方、環境保全セグメントでは、エネルギー効率の高い設備への更新や、焼却炉のより効率的な運転を継続することにより、エネルギー原単位が10%改善しました。

●車両燃費(アサヒプリテック)



デジタルタコグラフを活用しエコドライブの推進や、回収ルートの見直しによる運搬効率向上など省エネルギーの取り組みを進めました。燃費低下要因となる積載重量の増加や箱型トラック導入による車体重量の増加などありましたが、2013年度の車両燃費は、前年度とほぼ同じ水準に維持することができました。

事業活動を通じた環境負荷低減効果

当社グループの環境負荷低減効果 (2013年度)

グループの主要事業・業務を対象に、その事業活動が社会全体の環境負荷をどの程度低減しているのかを評価しました。評価対象として、貴金属リサイクル、環境保全の2事業部における、①天然資源節減量、②再資源化量、③温室効果ガス排出抑制量、④最終処分量低減効果、⑤有害物の安定化について算出しました。

事業・工程 環境負荷低減効果	貴金属リサイクル	環境保全							
		廃液処理	ガラス/レンガリサイクル	焼却処理	発酵堆肥化	燃料製造	フロン無害化処理	燃え殻・汚泥等の処理	情報機器リサイクル
天然資源節減	●		●	●		●			
再資源化		●	●		●	●			●
温室効果ガス排出抑制	●						●		
最終処分量低減			●	●	●	●			◆
有害物の安定化								●	

●：重量で算出
◆：数値評価の対象外

最終処分量低減効果は、当社に持ち込まれた廃棄物のうち廃油、廃酸、廃アルカリ以外で、当社廃棄物処理工程を経ることによって減容化した量（管理型埋立処分しなかった量）を対象としています。

天然資源節減効果

各種廃棄物の再資源化により、天然資源（貴金属・非鉄金属鉱石、蠟石、珪石、森林、化石燃料など）の採掘や伐採を節減し、地球環境の保全に貢献しています。

貴金属鉱石（貴金属リサイクル）



貴金属やレアメタルを多く含む原材料をリサイクルし、貴金属鉱石などの鉱物資源の節約に貢献しています。

2,118.3千t

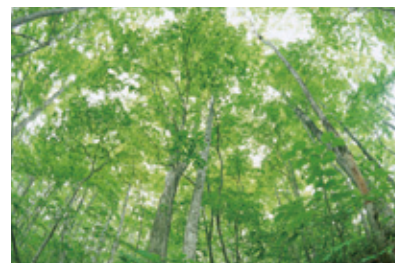
化石燃料（廃棄物有効利用）



焼却炉で、廃棄物（廃油、プラスチックなど）が保有する熱エネルギーを有効活用し、焼却に必要な燃料（化石燃料）を節減しています。

8.4千t

森林（建設廃材リサイクル）



木質系建設廃材から作られた木材チップは、カーボンオフセット燃料として化石燃料に代わり使用されています。

60.0 t

再資源化（リユース製品含む）

各企業でゼロエミッションの取組みが推進されリサイクルできる廃棄物が減少傾向にあります。このような状況でも、廃油の代替燃料化促進や情報機器等の素材分別向上などにより2013年度のリサイクル率は76.1%になりました。

（ ）内は主な原料廃棄物

ガラスカレット（瓶、廃板ガラス）



93.6千t/年

発酵堆肥（食品廃棄物・有機汚泥）



14.4千t/年

木材チップ（建設廃材）



60.0 t/年

非鉄金属原料（金属含有廃液）



4.2千t/年

耐火レンガ、路盤材（炉廃材）



4.1千t/年

金属くず（建設廃材、OA機器）



4.2千t/年

セメント用燃料・原料

（廃プラスチック、廃油・廃液、木材チップ、汚泥）



5.4千t/年

廃白土（無機汚泥、木くず）



10.5千t/年

エマルジョン燃料（廃油、廃アルカリ）



3.8千t/年

温室効果ガス排出抑制効果

115.3千t

貴金属やガラス・耐火レンガリサイクル、フロン回収などの事業活動を通じて温室効果ガス排出抑制に貢献しています。

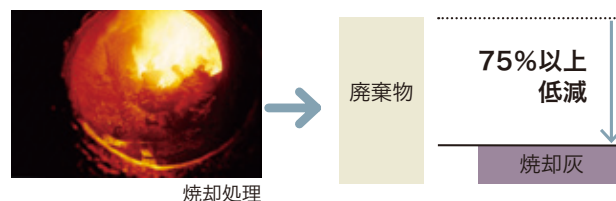
●金の場合



最終処分量低減効果

廃棄物減容量 29.7千t

廃棄物を焼却処理することにより、最終処分量（埋立量）を低減できます。2013年度の減容量は29.7千t、減容量率は85.1%となりました。



有害物質の安定化

24.8千t

有害物質（ヒ素・鉛・クロム・セレン等の重金属類、ダイオキシン類など）を含む燃え殻、煤塵、汚泥などの中には、リサイクルに適さないものがあります。このような廃棄物から有害物質が溶出しないようにコンクリート固化処理し有害物質を安定化しています。2013年度の処理量は24.8千t、安定化率は98.9%となりました。

環境マネジメント

環境方針

貴金属・希少金属リサイクル業と産業廃棄物処理業を中心とした各事業を通じて、地球環境の保全と循環型社会の形成に貢献します。

- (1) すべての事業活動において、環境負荷軽減のために、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減およびリサイクルを図ります。
- (2) 限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属・希少金属を中心とした資源のリサイクルを推進します。
- (3) 産業廃棄物の収集運搬・中間処理を適切かつ安全に行い、環境汚染を防止します。
- (4) 自然との調和、地域社会との共生を大切に、関連する環境の法規制および当社が同意するその他の要求事項を順守します。
- (5) 環境目的・目標を定め、定期的に見直し改善します。
- (6) 社員が一市民としても環境保全活動に理解を深め、かつ行動するように教育・啓発を行い、意識の向上を図ります。

この環境方針は全従業員および組織のために働く全ての人へ周知するとともに、社外にも公開します。

ISO14001 認証取得状況

アサヒブリテックでは、2000年のテクノセンターを皮切りに、これまで22拠点でISO14001の認証を取得してきました。

これにより、当社グループ全体では、10社35拠点での認証取得となりました。今後も、業との一体化をキーワードとして、維持管理および改善活動に注力していきます。



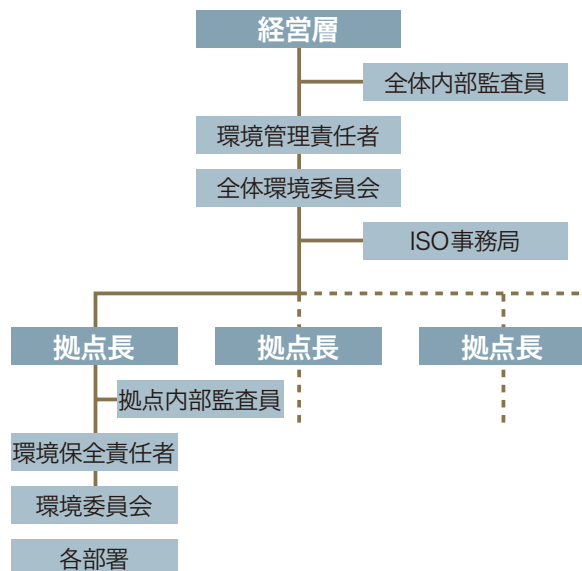
ISO14001 認証登録書

環境マネジメント推進体制

環境保全の理念を定めた「環境方針」に基づき、「全社環境目的・目標(年間計画)」を策定します。

これを受け、ISO14001認証を取得している事業所では、「拠点環境目的・目標(年間計画)」を策定し、業務に密着した環境保全活動を行います。また、各拠点の環境委員会は環境法規制の順守、計画の見直し、環境教育等を審議し経営層に報告しています。環境マネジメントシステム(EMS)はISO事務局が統括していますが、各事業所に環境保全責任者を設置し、推進の徹底を図っています。

ISO14001 統合認証取得拠点運営体制



ISO14001 環境監査

ISO14001活動の規格適合状況は、定期的に外部審査機関による審査を受けています。

また、各拠点においてもEMSが適切に運用されていることを確認するために、内部環境監査を年1回以上実施しています。



外部審査機関による定期審査

社会的側面

For the Society

私たちは社会と共生する「良き企業市民」としてさまざまな企業活動を通じ継続的に社会に貢献していきたいと考えています。

INDEX

- 25 コーポレート・ガバナンス
- 27 お取引先の皆様とともに
- 28 地域社会の皆様とともに
- 30 社員とともに
- 35 株主・投資家の皆様とともに

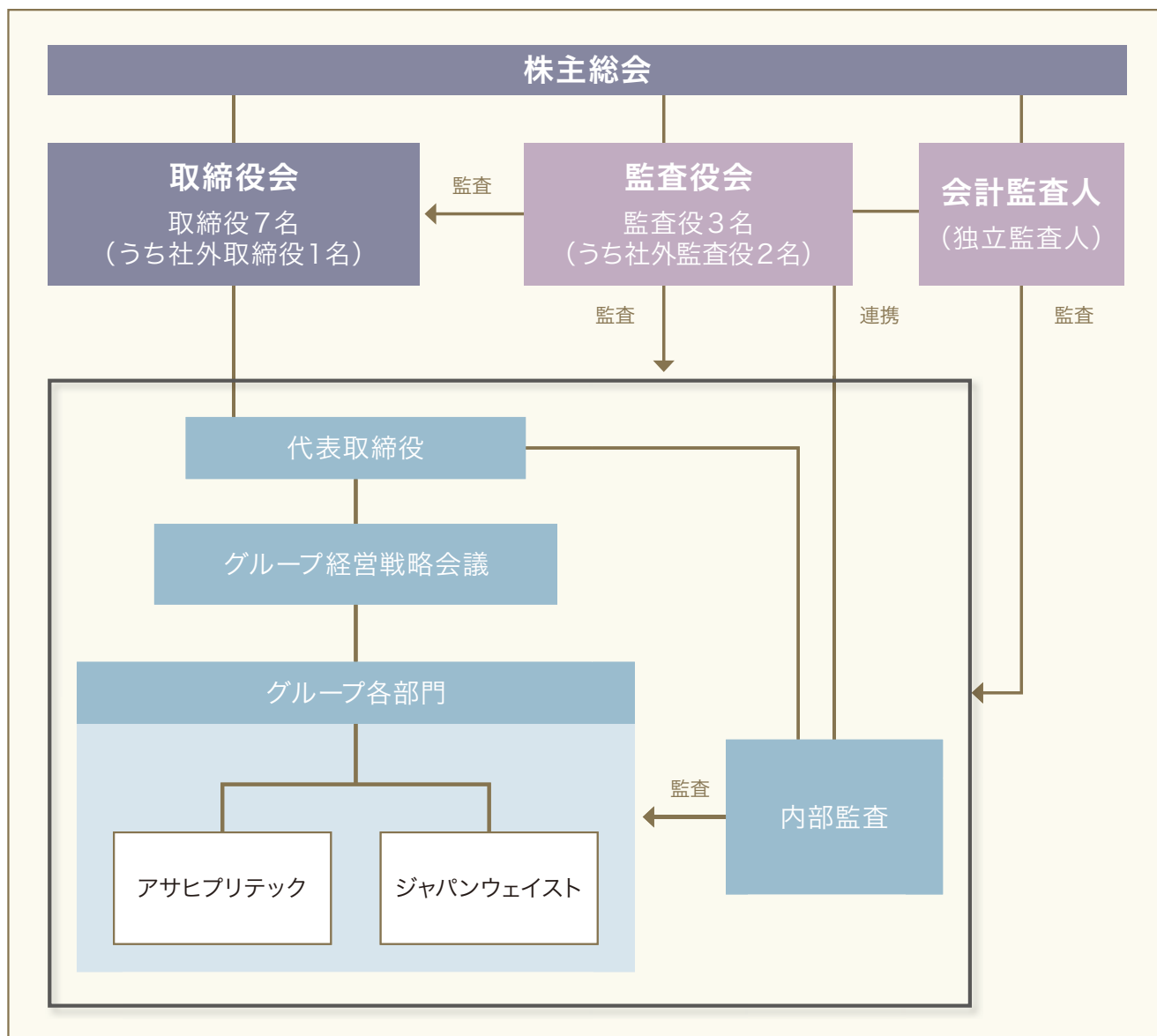
コーポレート・ガバナンス

持株会社体制のもと、より強固なグループ・ガバナンスの構築とリスクマネジメントの推進に努めています。

コーポレート・ガバナンスに関する考え方

ステークホルダーの皆様の期待に応えつつ、企業価値の最大化を図るために、持株会社であるアサヒホールディングスを中心として、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。事業会社であるアサヒプリテックとジャパンウェイストは、分野ごとの特性に応じた迅速な意思決定を行い、事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。各社がその責務を果たし、企業グループとしての持続的な成長と発展をめざしてまいります。現在は取締役7名中1名、監査役3名中2名を社外から選任しており、いずれも経営に対して独立した立場から監視・監督機能を果たしています。

●アサヒホールディングス コーポレート・ガバナンス体制



内部統制システムの整備

取締役会・監査役会・会計監査人・内部監査部門・内部統制部門それぞれが有効に機能する体制を確立するとともに、コンプライアンスやリスクマネジメント、情報管理に関する規程を整備し全社的な取り組みを実施することで、内部統制システムの強化を推進しています。また、公正で健全な企業活動を遂行するために、グループの構成員として厳守すべき行動指針をアサヒウェイで定めています。

コンプライアンス

コンプライアンスは公正な企業活動を実現するための重要課題であると位置づけており、法令順守および企業倫理の徹底に取り組んでいます。とりわけ、廃棄物の適正処理に関わる事業は環境関連法令や行政の許認可にもとづいており、社員一人ひとりが常に高い順法精神をもって行動することが求められます。コンプライアンスに関する規程やマニュアルを整備するとともに、社員教育や社員相互コミュニケーションの場において一人ひとりの順法意識の向上に徹底して取り組んでいます。



情報保護教育

内部通報制度

社内で違法、不当な行為などの問題を早期に発見し解決するために、「アサヒホットライン（内部通報制度）」を設けています。社外の法律事務所を窓口とし、匿名での申告も受け付けています。通報案件に関しては、申告者や被申告者の人権やプライバシー保護に配慮した上で調査・是正措置を講じる体制を整備しています。

リスクマネジメント

企業活動上に顕在・潜在するさまざまなリスクを適切に管理するために、総合的な視点でリスクを把握し、評価および対策を実施しています。リスクマネジメントを推進することで、リスクの発生を未然に防止するとともに、危機に発展した場合の損失を最小限に止めるよう努めています。

事業継続計画（BCP）

大規模災害などのさまざまな要因によって当社グループの事業継続に必要な機能が低下するリスクがあります。被害があった場合も早期に機能復旧をめざすためのアクションプランとして事業継続計画を策定し、以下のような施策を推進しています。

- ・ 主要工場への自家発電機導入による補助電力確保
- ・ 工場設備の運転時間調整やオフィスでの節電によるピーク電力抑制
- ・ サーバーなど情報システムのバックアップ強化
- ・ 一部生産、処理工程の分散化（複数拠点による相互補完）
- ・ 機器設備類の耐震性強化
- ・ 化学物質等の漏液、拡散を防ぐための設備強化
- ・ グループ全拠点での飲料水、食料等の備蓄
- ・ 安否確認、緊急連絡網の整備



お取引先の皆様とともに

「お客様第一主義」を合言葉に、お取引先の皆様の幅広いニーズにきめ細かく対応できるよう努めてまいります。

お客様サービス向上への取り組み

●お客様満足度調査

定期的に「お客様満足度調査」を実施しています。当社の営業活動全般に対する満足度を調査し、回答結果をもとに問題点の改善を行っています。今後も定期的に調査を行い、お客様の満足度向上に取り組んでいきます。

●公正取引に関する取り組み

当社グループはアサヒウェイ(3頁参照)の中で、「公平な競争を阻害する行為の禁止」、「お取引先の情報や技術等の機密保持」、「不適切な利益授受の禁止」などを定め、公正取引や企業倫理の順守を徹底しています。

品質保証体制

アサヒプリテックでは品質保証部門が中心となり、営業部門、技術開発部門、製品製造部門が合同で「品質保証会議」を開催しています。この会議を通じてお客様の声や市場の動向などを共有化し、お客様満足度の向上に取り組んでいます。

また、お客様により安心・満足していただける製品を提供するためにISO9001を取得し、品質マネジメントシステムの継続的改善・品質の維持向上に努めています。2010年3月には、ISO9001取得4拠点の認証を統合し、全社一体となった品質管理システムの運用を開始しました。

さらに当社はグリーン調達や欧州の化学物質規制法であるRoHS指令、REACH規制にも配慮し、環境負荷低減や有害物質の拡散防止に努めています。



ISO9001 認証書

ISO9001 認証取得

アサヒプリテック(株)
テクノセンター
福岡工場
愛媛工場
埼玉工場

情報漏洩に対する危機管理体制

営業員が使用しているパソコンやタブレット端末には最新のセキュリティ対策が施してあり、万一端末の紛失や盗難にあった場合でも、リモート操作により情報削除を行うなどの手法で情報漏洩の可能性を限りなくゼロに近づけています。また、埼玉・尼崎に設置しているリサイクルセンターでは2011年3月にISO27001を取得しました。パソコン廃棄にともなう情報漏洩対策としてデータ消去サービスやHDD等の破壊を行い、事業活動を通じて情報保護に貢献しています。



専用ソフトによるデータ消去

地域社会の皆様とともに

全国で事業活動を展開している当社にとって、地域の皆様からのご理解とご支援は不可欠です。企業市民として社会と共生する企業であり続けるために、さまざまなかたちで地域に根ざした活動を行っています。

活動事例紹介

●古賀市アダプトプログラムへの参加

福岡営業所では古賀市のボランティア活動、「古賀市アダプトプログラム」に参加しています。美しい町並みをめざし、企業や事業所と古賀市とパートナーシップを組み、きめ細やかな美化および保全活動を行うプログラムです。公共空間である道路等の環境美化に対する意識の高揚を図ることを目的としており、市内の小・中・高・大学を始め様々な団体が定期的な活動を行っています。営業所全員で継続的に活動し地域社会、環境保全へ積極的に貢献しています。



●神戸経済同友会の森プロジェクト

当社は神戸経済同友会主催のボランティア活動である「神戸経済同友会の森プロジェクト」に参加しています。この活動は5年間を通じて森づくり活動を支援するもので、今年で3年が経過しました。六甲山系・再度山^{フタタビサン}での森林整備（間伐・除伐）や自然観察会等を通して自然に対する理解を深め、次代の森を育む活動を行っています。



●「子ども110番」連絡所登録への取り組み

青森営業所では地域ぐるみで子供たちの安全を守っていくボランティア活動として「子ども110番連絡所」に参加登録し活動しています。「子ども110番連絡所」とは、子供が登下校時等に何らかの被害に遭った、また遭いそうになり身の危険を感じ助けを求めてきた時、一時的に保護すると共に警察、学校、家庭等に連絡し子供たちの安全を守っていくボランティア活動です。子供が見やすい位置にポスターを貼付し「子供が安心して避難できる環境作り」に努めながら、より一層地域に根ざした活動に取り組んでいます。



事業活動を通じた社会貢献

当社は、財団法人8020推進財団の8020運動（80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動）の主旨に賛同し活動支援を行っています。

日本口唇口蓋裂協会等のボランティア団体が実施している医療支援活動や、日本財団と日本歯科医師会の協力により推進されている「TOOTH FAIRY（歯の妖精）」プロジェクトへ協力企業として参画しております。

歯科医院で治療の役割を終えた貴金属のリサイクル活動による支援を行い、リサイクルされた金、パラジウムなどの貴金属の売却を通じて得られた利益は各団体の活動資金として役立てられています。



©V. Dupont/世界の医療団
世界の医療団による医療支援（スマイル作戦）

<当社が活動協力している主な団体>

- 財団法人8020推進財団



- 特定非営利活動法人
日本口唇口蓋裂協会
（口唇口蓋裂などに障がいをもつ子供たちへの医療援助）



- 日本財団
「TOOTH FAIRY」プロジェクト



- 特定非営利活動法人
メドゥサン・デュ・モンド ジャパン
（戦争・自然災害などで苦しむ人々への医療援助）



TOPICS 1

ベトナム口唇口蓋裂患者への無償手術援助活動

日本口唇口蓋裂協会は口に先天的な障害を持つ子供たちの援助活動、開発途上国での無償手術や医療援助を行う団体です。当協会は20年にわたりベトナムにて医療援助活動を行っており、これまで3,000名におよぶ口唇口蓋裂患者へ無償手術を提供してまいりました。



表彰式（医学歯科交流ワークショップ）



当社では貴金属リサイクル活動を通じ協力企業として活動支援を行ってまいりました。

この度、当社のリサイクル活動が高く評価され、国交樹立40周年を記念しハノイで開催された国際会議にてハノイ医科大学の学長より感謝状が贈呈されました。引き続き貴金属リサイクル活動を通じ、企業としての社会的役割を果たしてまいります。

TOPICS 2

日高高校の皆様を迎えて工場見学会の実施

アサヒプリテックでは、社会貢献活動の一環として高等学校を対象とする工場見学会を実施しています。2013年10月、和歌山県立日高高等学校の生徒80名を迎え、尼崎工場および神戸工場において見学会を実施いたしました。尼崎工場では希少金属の精製工程、神戸工場では産業廃棄物の処理工程を中心に紹介しました。



工場見学

社員とともに

個性を尊重し仕事を通じて自己を磨き、生きがいと連帯感のある明るい職場を形成することをめざしています。また、一人ひとりが持つ強みを最大限に引き出し仕事に活かせるよう、また社員が自分の仕事に「やりがい」「働きがい」を持って取り組めるように、さまざまなサポートを行っています。

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・バランス

やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスをとりながら、持っている能力を最大限に発揮して人生を送ることは、社員だけでなく会社にとっても大事なことです。私生活において重要なものは、家庭や健康、スポーツや趣味など個人の価値観によってさまざまです。当社は、社員が私生活と仕事のバランスをとれるようにサポートしています。

●社員総会の開催

社員総会を毎年開催しています。社員総会ではトップメッセージ、前期実績に関する説明と当期重点課題の発表や、経営陣と社員のディスカッションなどを行っています。



社員総会

●健康管理体制への取り組み

法で定められた定期健康診断（生活習慣病予防健診、特定業務従事者健診、一般健診など）と健康リスクが高まる45歳以上の全社員と管理職全員を対象に「人間ドック健診」を実施しています。また、受診対象者からの要望により、脳ドック、がんの早期発見を目的としたPET検診の受診もサポートしています。

受診率は100%で、会社と社員双方が健康増進、疾病の予防と早期発見に取り組んでいます。

●メンタルヘルスケア

現代社会は、職場や生活に関する不安や悩みによるストレスが蔓延しているといわれています。

当社では、社員の生産性や活力の向上には心の健康が不可欠であると考え、メンタルヘルス専門の産業医と連携し、個別相談会や予防セミナーを実施しています。また、医学的見地から健康増進に関するセミナーも随時実施し、総合的な健康管理に努めています。



個別相談会



メンタルヘルスマネジメント研修

●自己申告制度

全社員が年に1回、申告書で仕事上の能力発揮度、適性、やりがい・達成感、人間関係・職場の雰囲気等の各項目に関して自己評価を行い、自らが希望するキャリアプランも記入します。また、チェックリストによる疲労蓄積度自己診断も申告書内で実施しています。

各自が申告書を直接人事部に提出し、人事部は申告内容をもとに担当役員や上司とともに、人員配置の見直し、職場の雰囲気の改善や各自のやりがいを促しています。

●全社員インタビュー

3年に1回、全社員を対象に個人面談を実施しています。面談では、現状の職場環境や仕事内容について丁寧なヒアリングを行い、社員一人ひとりのワークライフバランスを考慮した勤務環境の改善に向けて、適正な業務量と勤務時間となるよう指導を実施しています。

●社員意識調査

3年に1回、全社員を対象に「意識調査」を実施しています。この調査は職場、仕事、上司、会社に関する社員の満足度や意識・価値観、企業風土の認識を客観的に把握するために行っており、調査結果を組織と人材のさらなる活性化に役立てています。

●障がい者雇用

障がいをもつ社員が健常者と同じ職場で各種業務に従事しています。



●育児介護休業制度

出産や育児、家族の介護などと仕事との両立を支援しています。育児介護休業制度にある短時間勤務等により、社員のライフスタイルに合わせた働き方をサポートしています。

●リフレッシュホリデー

入社2年目から毎年、3～5日の連続休暇を取得する制度で、土日を含めると9日間連続の休暇が取得可能となり、家族との旅行や趣味に利用しています。



●社内クラブ活動支援

野球部やフットサルなどのクラブ活動を通して、職場の同僚やお取引先とのコミュニケーションを図っています。



人材育成

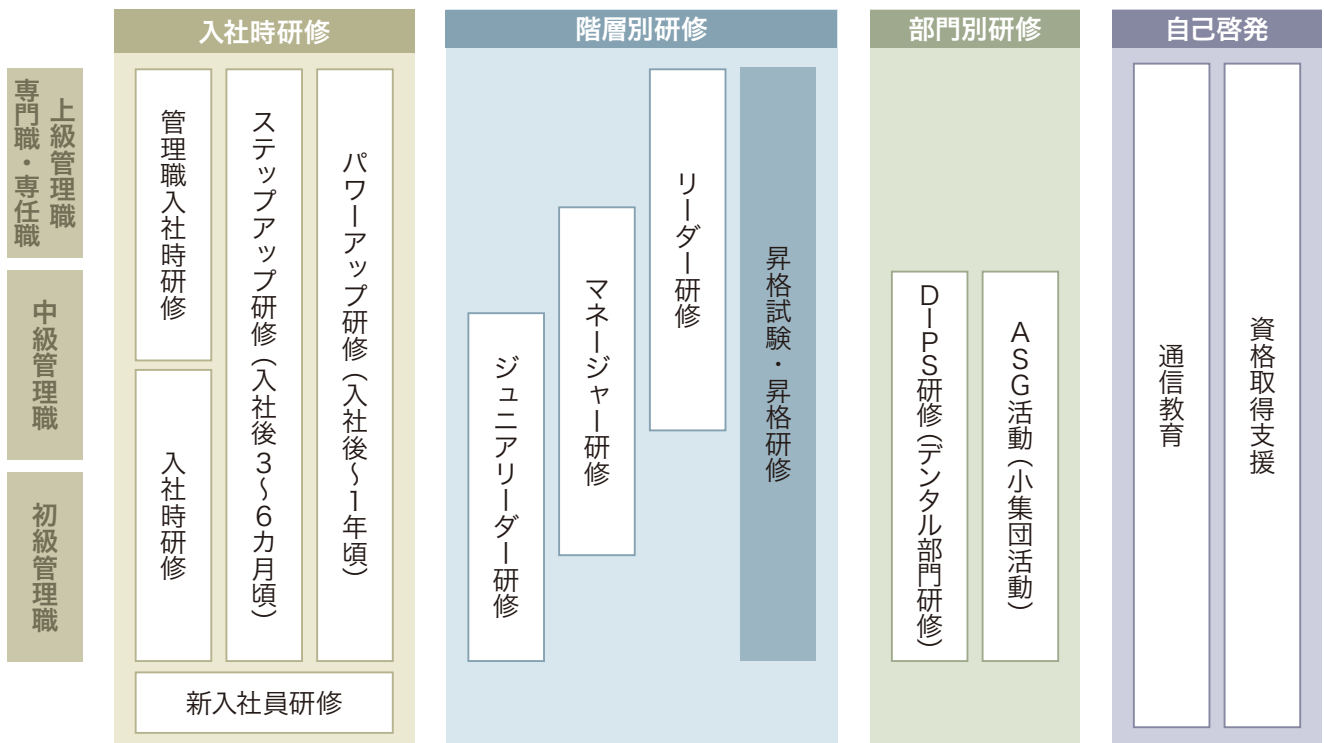
人材育成に関する考え方

社内のいかなる階層・職種にあっても専門性を重んじたプロフェッショナル人材であることをめざし、独自の資格制度や社内教育カリキュラム、またASG活動とよばれる自発的な小集団活動などを実施しています。さらに、社員一人ひとりの業績貢献度を公平、公正に評価する成果主義人事制度を核に、チャレンジ精神を持った人材育成に努めています。

●社員研修制度

入社時期の習熟度に合わせた研修（入社時研修・ステップアップ研修・パワーアップ研修）と階層別の選抜型人材育成研修（ジュニアリーダー研修・マネージャー研修・リーダー研修）を実施しています。そのほか、部門別研修や技

能教育を通じて、個人がプロフェッショナル人材として必要な実務知識を習得し、専門能力を培っていくことができる研修プログラムを設けています。



パワーアップ研修



ジュニアリーダー研修



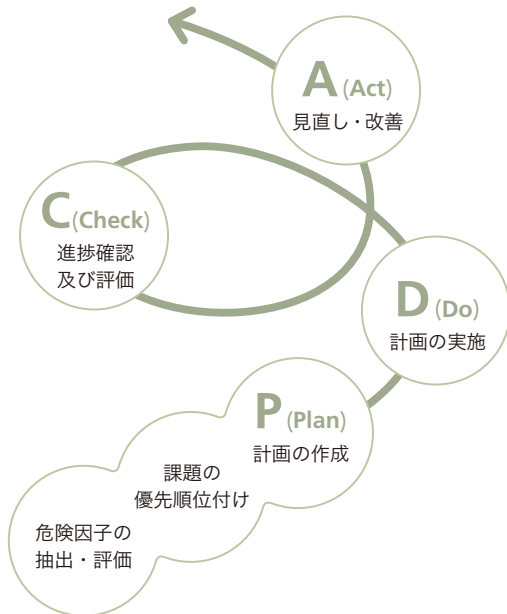
マネージャー研修

安全衛生活動の推進

OSHMS への取り組み

労働災害を減少させるには、職場に潜在する無数のリスクに着目し、事前にリスクを減少させ、労働災害の芽を摘み取ることが重要です。当社は、労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS*) の考え方を取り入れ、リスク低減による職場の安全衛生水準の向上をめざしています。

当社のOSHMSでは、危険・有害要因の評価をもとに『計画を立て』(Plan) ⇒ 『計画を実施し』(Do) ⇒ 『実施結果を評価し』(Check) ⇒ 『評価をふまえて見直し、改善する』(Act) という一連のサイクル (PDCAサイクル) を繰り返し実施することによって、職場のリスクを低減することを基本としています。



OSHMS*: Occupational Safety and Health Management System

環境安全教育

環境安全教育は、社員研修制度の「人材育成プログラム」のなかで実施しており、安全に仕事を行うための心構えや、危険物の基礎知識などを教育しています。また、このなかでは「就業中に火災が発生した場合にどう対応するか」などの具体的な緊急事態を想定して、グループ討議を行うロールプレイ形式の教育も取り入れており、各人が実際の現場で取るべき行動を正しく認識できるよう工夫しています。



環境安全教育

現場サポートにおいては、安全衛生に関する専門スタッフにより、営業・工場現場でのOJTを実施しています。作業員・担当者への安全指導により、職場環境安全衛生レベルの向上を図っています。

TOPICS 事故撲滅プロジェクト

当社は今までも職場に潜在するリスクを抽出・改善し、リスク低減を積極的に推進してきました。しかし安全に対する社会的な要求は、年を追うごとにますます高まっています。

そこで当社は、2013年10月に「事故撲滅プロジェクト」を発足させました。このプロジェクトでは、経営トップがプロジェクトリーダーを務めることで、迅速で抜本的な安全管理体制の構築をめざしています。高い安全性を確保し、維持し、継続的に改善することで、社員が更に安心して働くことのできる現場をめざします。



工場研修

緊急事態の対応

安全対策として、事業活動上のリスクを洗い出し、拠点ごとに「安全推進責任者」を決定し、予防策を講じるとともに、万一問題が起こった場合には、迅速に対応する体制を整えています。

また、緊急事態発生時の社内外への対応として「緊急事態対応管理マニュアル」を完備し、かつ、事故・災害発生初期の対応要領を記載した「事故・災害対応の手引き」を全員に配布しています。



緊急事態対応訓練

安全活動に対する表彰制度

毎年、安全管理に貢献した事業拠点や社員を対象に社員総会の場で表彰を行い、安全意識の高揚に努めています。



安全活動に対する表彰

小集団活動による活力ある職場形成

同一職場内の社員による自発的・主体的な参加のもと、ASG活動(Asahi Small Group活動)を行っています。活動を通して創意工夫を行い、職場内の問題解決を図っています。優れた取り組みを行ったグループには社員総会で表彰を行っています。

INTERVIEW ASG活動に参加して

私は横浜営業所(管理G)において、貴金属リサイクル事業および環境保全事業における管理業務を担当しています。今年度のASG活動では管理G全体で組織力のアップを目標とし、「業務の効率化」、「CSの向上」、「コスト削減」の3項目を重点に取り組んできました。

「業務の効率化」として、営業所全体の事務業務の見直しを行い改善提案の実施をいたしました。「CSの向上」では、「よりスムーズかつ的確」な電話対応をめざし、情報の共有化やコミュニケーションの強化を図りました。「コスト削減」として、営業所全員の意識を強化し、自発的にコスト削減の取り組みが出来る体制を再構築しました。

このASG活動を通じ、管理Gメンバー全員の意識改革となりました。考える集団として業務に対する姿勢やコミュニケーションが強化され、組織力およびモチベーションの向上に繋がりました。今後も現状に満足することなく、アサヒウェイの「革新と挑戦」を念頭に、組織運営に携わっていきます。

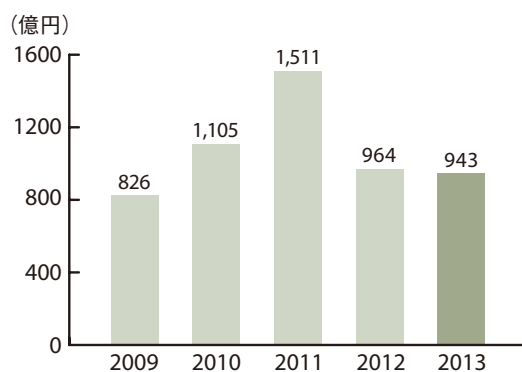


ASG活動 横浜営業所
グループリーダー 永岡 寛隆

株主・投資家の皆様とともに

成長戦略を積極的に推進し、事業の発展を通じた企業価値の向上と安定的な株主還元に努めています。

●売上高



●営業利益



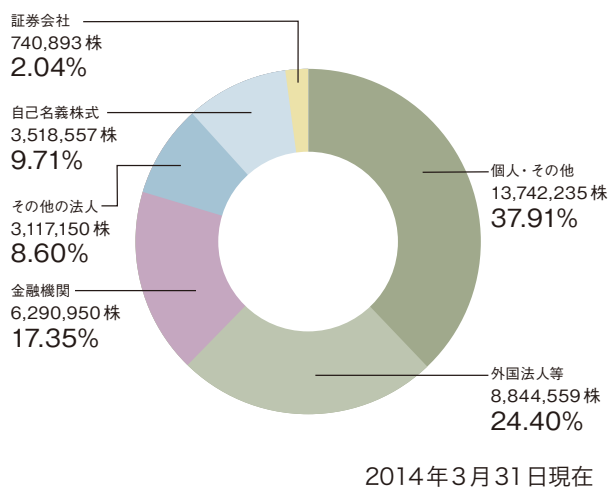
●株主資本利益率 (ROE)



●自己資本比率



●所有者別株式分布状況



株主還元の基本方針

当社は、企業価値の持続的向上のため、収益基盤の充実を図りながら、成長戦略投資を行ってまいります。その成果配分におきましては、配当性向などを指標として、安定的な配当を実施することで、株主の皆さまへの利益還元を実現してまいります。

●1株あたり配当金



資料編

Reference

INDEX

- 37 グループの歩み
- 39 グループ一覧

アサヒホールディングスグループの歩み

私たちが創業から一貫して変わらずに取り組んできたテーマ。それは、「資源の有効利用」と「環境保全」です。

現在ほど「リサイクル」や「環境問題」に社会的関心が向けられていなかった時代に、写真現像工程からの銀のリサイクルを事業化しました。また、環境保全事業にも新たに参入しました。

1952

大阪市に朝日化学研究所として創業
写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
高度経済成長とともに、商業印刷、医療など写真感光材料に関する業界も大きく発展し、銀の需要が拡大

1959

神戸営業所を開設

1964

株式会社に改組

1968

神戸市東灘区に神戸工場建設
富士写真フィルム(株)(当時)へ銀納入を開始

1969

業界に先駆けて、独自開発による電気分解式の銀のリサイクル装置を導入、効率的で高純度な銀リサイクルを実現

1971

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」施行
廃棄物排出事業者に対して、廃棄物の排出抑制と適正処理を義務付け
富士写真フィルム(株)「写真処理環境保全システム」
西日本地区指定業者に指名

1974

福岡営業所を開設、以後、全国へ営業所・工場を展開

1975

神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得
(写真廃液無害化処理)
小型電解銀回収装置「プラタ」を開発

1978

神戸市東灘区に本社社屋を竣工
環境計量証明事業所の登録

1981

目標管理・提案制度の開始
デジタルカメラの実用化が発表

技術革新による市場の変化に対応し、貴金属リサイクル事業の多角化を進めました。

1982

デンタル分野からの貴金属リサイクル事業を開始
写真廃液処理市場の縮小を予見し、貴金属リサイクル事業の多角化を決断

1984

メッキ分野からの貴金属リサイクル事業を開始

1986

電子材料、宝飾分野からの貴金属リサイクル事業を開始
小型電解金回収装置「ジバング」を開発

1988

メッキ用化成品製造販売を開始

1990

写真廃液関係以外の環境保全事業を開始

1993

特別管理産業廃棄物処理業許可を取得
日本の環境政策の根幹となる「環境基本法」の制定

国内のお取引先の海外事業展開にともなう、現地での貴金属スクラップ回収のニーズにお応えするために初めて海外拠点を開設し、株式市場への上場も果たしました。

1994

マレーシアに現地法人 Asahi G&S Sdn.Bhd. を設立

1997

関係会社5社を吸収合併し、「アサヒプリテック株式会社」に社名変更

1998

本社機能を神戸・三宮に移転
テクノセンター開設
歯科用合金製造を開始

1999

テクノセンターでISO9002の認証を取得
(2002年にISO9001に変更登録)
店頭市場に株式公開

2000

テクノセンターでISO14001の認証を取得
インジウム精製を本格的に開始
東京証券取引所市場第二部に株式上場

廃棄物処理に関するお客様ニーズの多様化に対応
するために、M&Aを通じて取り扱い品目の拡充
とサービス提供エリアの拡大を進めました。

2001

(株)三商・(株)大門・(株)エコマテリアルの3社が
グループに加わる

2002

東京証券取引所市場第一部に上場
創業50周年

2003

中国に現地法人上海朝日浦力環境科技有限公司を設立

2004

日本ケミテック(株)がグループに加わる

2005

(株)塩入建材がグループに加わる
自動車触媒リサイクル事業の拡大
(株)大門を日本ケミテック(株)に合併

2006

(株)イヨテックがグループに加わる
錦興産(株)がグループに加わる
(株)エコマテリアルを日本ケミテック(株)に合併
韓国に現地法人韓国アサヒプリテック(株)を設立

2007

東京本社を東京都千代田区丸の内に設置
錦興産(株)を合併
(株)太陽化学がグループに加わる
(株)サニックスより環境事業の一部を譲り受け、北九州
事業所を開設

2008

ジャパンウェイト(株)を設立
富士炉材(株)がグループに加わる

事業を通じて社会に貢献する「エコビジネスのリー
ディングカンパニー」をめざして挑戦を続けます。

2009

持株会社制へ移行しアサヒホールディングス(株)が上場
井尾ガラスよりガラスリサイクル事業の一部を譲り
受け、JWガラスリサイクル(株)の事業を開始

2010

中国に合併会社江門朝日福資源综合利用有限公司を設立
エコマックス(株)がグループに加わる
ジャパンウェイト(株)横浜事業所を開設
韓国アサヒプリテック(株)のチュンジュ工場竣工、デン
タル事業を開始

2011

Eスクラップ事業を開始
(株)ウスタ製作所がグループに加わる
(株)共同化学がグループに加わる

2012

(株)インターセントラルがグループに加わる
(株)塩入建材を富士炉材(株)に合併

2013

台湾に現地法人台湾アサヒプリテック(株)を設立
台湾に合併会社朝世科技股份有限公司を設立
ベトナム駐在員事務所を設置
(株)三商が「JWロジスティクス株式会社」へ社名変更
台湾アサヒプリテック工場の開設

2014

楯永工業(株)がグループに加わる

アサヒホールディングスグループ一覽

アサヒプリテック株式会社

貴金属リサイクル事業

エレクトロニクス、自動車触媒、液晶パネルディスプレイ、歯科、宝飾、写真などの分野で用いられる貴金属・レアメタルの回収・精製・リサイクル

環境保全事業

廃棄物処理その他の環境保全事業

<国内拠点>

●株式会社ウスタ製作所

半導体製造装置の治具精密洗浄、および貴金属分析・回収

〒389-0512 長野県東御市滋野乙4063-1

TEL : 0268-62-4533 FAX : 0268-62-4534

URL : <http://www.usuda-jp.com/>

<海外拠点>

●韓国アサヒプリテック株式会社

貴金属リサイクル事業

電子産業、歯科関係など広範囲な分野からの貴金属回収およびリサイクル

(ソウル支店)

#501, City Air Tower, 159-9, Samsung-Dong, Gangnam-Gu, Seoul, 135-973 South Korea

(チュンジュ工場)

Chungju 1 Sadan, 1131-2 Yongtan-dong, Chungju-si, Chungcheongbuk-do, 380-250 South Korea

TEL : +82-43-723-2503 FAX : +82-43-723-2525

URL : <http://asahipretec.co.kr/>

●上海朝日浦力環境科技有限公司

貴金属リサイクル事業

日系メーカーを中心に、貴金属を回収し、現地工場でリサイクル

No.419 Sub-Chuhua Road, Fengxian Sub-zone, Shanghai Chemical Industry Park, Shanghai, 201417 China

TEL : +86-21-5744-8158 FAX : +86-21-5744-8168

●台湾アサヒプリテック株式会社

貴金属リサイクル事業

電子部品メーカーなどから貴金属の回収およびリサイクル

No.17-2, Datong Rd., Hukou Township,

Hsinchu County 30352 Taiwan (R.O.C.)

TEL : +886-3-597-0622 FAX : +886-3-597-0625

●朝世科技股份有限公司

貴金属リサイクル事業

台湾精密洗浄事業最大手の世禾科技股份有限公司との合併により、電子・半導体及びLED製造装置等の治工具からの貴金属の剥離、回収、洗浄を行っています。

No.17-2, Datong Rd., Hukou Township,

Hsinchu County 30352 Taiwan (R.O.C.)

●Asahi G&S Sdn. Bhd. (マレーシア)

貴金属リサイクル事業

電子部品メーカーおよび現地の宝飾メーカーなどからの貴金属およびリサイクル

Plot 65, Lintang Bayan Lepas 6, Phase IV, Non FTZ, 11900 Bayan Lepas, Penang, 11900 Malaysia

TEL: +60-4-646-1292 FAX : +60-4-646-2292

●ベトナム駐在員事務所

貴金属リサイクル事業

貴金属リサイクル事業における市場調査および現地サポート

R.802.2 Vietnam Business Center, 57-59,

Ho Tung Mau, Ben Nghe Ward, Dist.1,

Ho Chi Minh City, Vietnam

ジャパンウェイスト株式会社

環境保全事業

1. 廃油の燃料化
2. 汚泥等のセメント原料化
3. 建築廃木材のバイオマス発電燃料への再資源化
4. 産業分野から排出される廃プラスチックなどの効果的な産業廃棄物の選別・破碎処理
5. 半導体製造装置・各種研究設備に付着する有害廃棄物洗浄処理
6. ジャパンウェイスト傘下の関連会社との連携による廃棄物処理、およびその他環境保全事業

<関係会社>

●日本ケミテック株式会社

環境保全事業

1. 半導体・電子部品メーカーなどから排出される産業廃棄物の中和処理、および微生物処理による無害化処理
2. 各種食品製造業や外食産業などから排出される食品系有機性廃液を微生物処理し脱水・減量化、および脱水ケーキからの堆肥生産

〒332-0004 埼玉県川口市領家5-1-39
TEL : 048-222-8711 FAX : 048-222-8719
URL : <http://nihon-chemitech.co.jp/>

●JWガラスリサイクル株式会社

環境保全事業

板ガラス・空き瓶の再資源化

〒136-0082 東京都江東区新木場4-3-32
TEL : 03-3521-6303 FAX : 03-3521-6305
URL : <http://www.jwglass.co.jp/>

●富士炉材株式会社

炉改修事業

硝子製造炉、ごみ焼却炉などの解体および定期修繕工事

建築工事業

河川・道路・橋梁・トンネルなどの土木工事・上下水道工事および建築物解体工事の請負事業

環境保全事業

耐火レンガなどの収集運搬および中間処理・リサイクル
〒144-0051 東京都大田区西蒲田6-36-11 西蒲田NSビル8F
TEL : 03-3735-8111 FAX : 03-3733-2479
URL : <http://www.fujirozai.co.jp/>

●エコマックス株式会社

環境保全事業

焼却処理施設などから発生する燃え殻・煤塵や汚泥等のコンクリート固化処理

〒253-0114 神奈川県高座郡寒川町田端1590番地4
TEL : 0467-75-1044 FAX : 0467-75-1217
URL : <http://www.eco-max.co.jp/>

●JWロジスティクス株式会社

環境保全事業

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬

〒230-0053 横浜市鶴見区大黒町4-1
TEL : 045-718-5181 FAX : 045-510-3450
URL : <http://www.san-shou.co.jp/>

●株式会社イヨテック

労働者派遣事業・業務請負事業

各種製造業への人材派遣、人材紹介および製造業務の請負
〒674-0092 兵庫県明石市二見町東二見799-2 読売日経ビル3F
TEL : 078-941-3377 FAX : 078-941-3388
URL : <http://www.iyotec.co.jp/>

●株式会社太陽化学

環境保全事業

1. 電子部品や写真分野などから排出される廃油・廃液の焼却・中和処理
 2. 病院などからの医療系廃棄物の焼却処理
- 〒899-2701 鹿児島県鹿児島市石谷町106-2
TEL : 099-278-1783 FAX : 099-278-4463
URL : <http://www.taiyo-kagaku.com/>

●株式会社共同化学

環境保全事業

1. 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬および中間処理(中和)
 2. 印刷製版所、病院から排出される廃液の処理およびフィルム等の回収
- 〒053-0055 北海道苫小牧市新明町2丁目4-5
TEL : 0144-55-2277 FAX : 0144-55-2838
URL : <http://kyka.co.jp>

●株式会社インターセントラル

環境保全事業

電気ヒーター類の製造・販売および放射冷暖房システムの設計・施工

〒020-0616 岩手県滝沢市木賊川417番地1
TEL : 019-688-1031 FAX : 019-688-1030
URL : <http://www.i-central.co.jp/>

●絃永工業株式会社

環境保全事業

防災、空調及び衛生設備の設計、施工

〒244-0812 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町191番地2
TEL : 045-826-1145 FAX : 045-826-1149
URL : <http://www.koei-kogyo.com/>

アサヒホールディングス株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー11F

TEL : 03-6270-1833

URL : <http://www.asahiholdings.com>

印刷に当たっての環境配慮について

■用紙

森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で適切に管理された森林からの原料を含む「FSC® 認証紙」を使用しています。

■インキ

揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用しています。

■印刷

アルカリ性現像廃液やイソプロピルアルコールなどを含む「湿し水」を使わない「水なし印刷方式」を採用しています。

